

## 報告案件

### 報告第1号

- 令和元年度北広島市地域包括支援センター運営報告
- 北広島市高齢者支援センター（地域包括支援センター）活動報告

### 報告第2号

- 地域包括支援センター運営状況調査結果（平成30年度分）

# 令和元年度北広島市地域包括支援センター運営報告

## ① 設置状況

\*4か所に委託

(令和2年3月末現在)

名称		きた高齢者 支援センター	みなみ高齢者 支援センター	にし高齢者 支援センター	ひがし高齢者 支援センター	合計
運営法人		社会福祉法人 札幌厚生会	社会福祉法人 北海長正会	医療法人社団 翔仁会	医療法人社団 银杏会	
生活圏域		西の里・東部北	北広島団地	大曲・西部	東部南	
相談受付体制		月～金 (9:00～17:30)・緊急時 24 時間電話受付体制あり				
個人情報保護／苦情対応		体制あり	体制あり	体制あり	体制あり	
委託 職員数 (職種)	包括 業務 担当	3 〔保健師〕 社会福祉士 主任ケアマネジャー	4 〔看護師〕 社会福祉士 2 主任ケアマネジャー	3 〔保健師〕 社会福祉士 主任ケアマネジャー	3 〔看護師〕 社会福祉士 主任ケアマネジャー	13
	プラシ専任	1 (社会福祉士)	3 (ケアマネジャー)	1 (ケアマネジャー)	1 (ケアマネジャー)	6
(兼務) 生活支援コーディネーター		0.5 (社会福祉士)	0.5 (社会福祉士)	0.5 (保健師) ※10月～社会 福祉士に交代	0.5 (社会福祉士)	2
人口 (人)		13,164	14,921	20,927	9,135	58,147
65 歳以上人口 (人)		3,721	6,937	5,254	2,925	18,837
高齢化率 (%)		28.3	46.5	25.1	32.0	32.4
75 歳以上人口 (人)		1,773	3,637	2,172	1,317	8,899
後期高齢化率 (%)		13.5	24.4	10.4	14.4	15.3
三職種1人当たり人口 (人)		1,240	1,734	1,751	975	平均 1,449

< 生活圏域別 総合事業対象者及び要介護認定者数 >

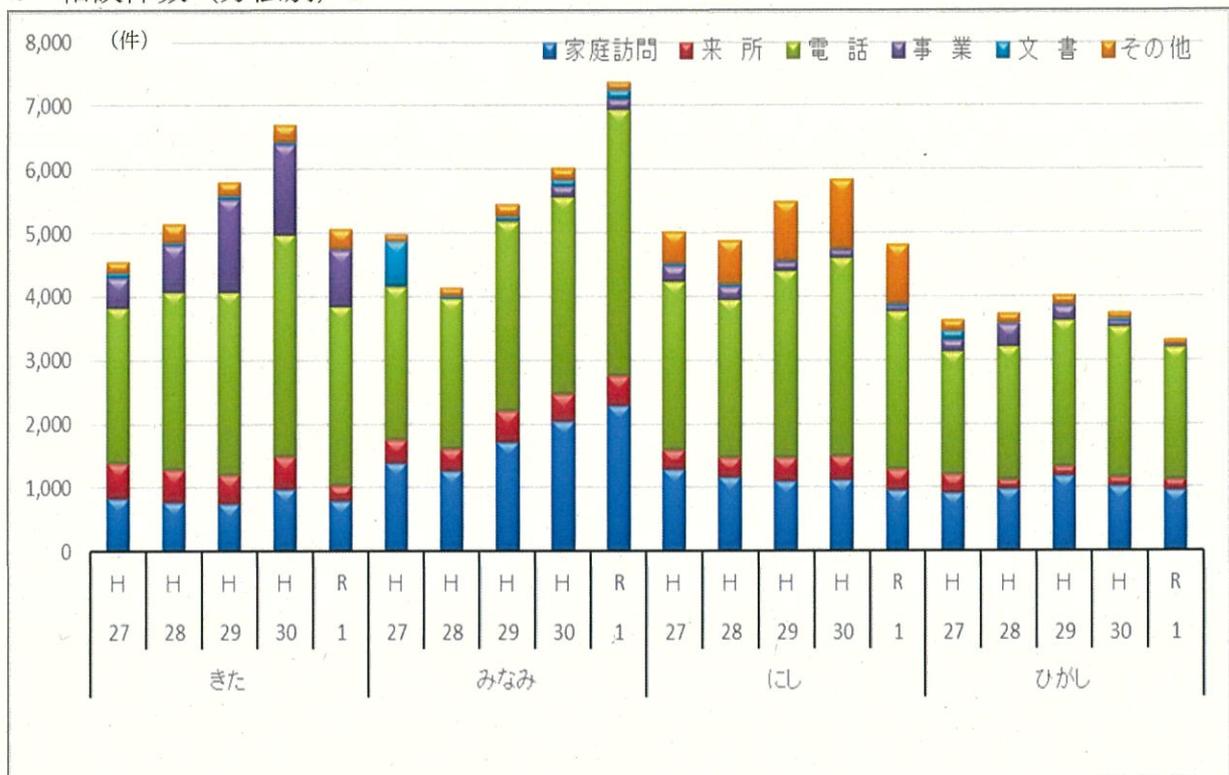
(令和2年3月末現在)

名称	きた高齢者 支援センター	みなみ高齢者 支援センター	にし高齢者 支援センター	ひがし高齢者 支援センター	計	
生活圏域	西の里・東部北	北広島団地	大曲・西部	東部南		
総合事業対象者	14	66	21	34	135	
要介護認定者数	707	1,184	839	488	3,218	
第1号被保険者	要支援1	150	286	179	94	709
	要支援2	76	122	78	53	329
	(要支援小計)	(226)	(408)	(257)	(147)	(1,038)
	要介護1	173	336	232	122	863
	要介護2	90	144	119	74	427
	要介護3	80	113	84	62	339
	要介護4	65	88	68	30	251
	要介護5	59	86	58	42	245
	(要介護小計)	(467)	(767)	(561)	(330)	(2,125)
	合計	693	1,175	818	477	3,163
第2号被保険者	要支援1	1	0	3	1	5
	要支援2	1	1	4	0	6
	(要支援小計)	(2)	(1)	(7)	(1)	(11)
	要介護1	4	1	4	2	11
	要介護2	1	4	5	1	11
	要介護3	3	0	0	3	6
	要介護4	2	0	2	4	8
	要介護5	2	3	3	0	8
	(要介護小計)	(12)	(8)	(14)	(10)	(44)
	合計	14	9	21	11	55

\*要介護認定者数・総合事業対象者数は、市外の住所登録者を除く

② 総合相談支援（予防給付、虐待等の相談を含む）

< 相談件数（方法別） >



年度	きた			みなみ			にし			ひがし			
	H29	H30	R1										
新規人数	95	113	65	150	279	277	57	57	49	56	49	88	
延べ件数	5,798	6,687	5,049	5,436	6,007	7,369	5,473	5,838	4,807	4,010	3,741	3,307	
	(620)	(649)	(556)	(757)	(898)	(946)	(763)	(824)	(808)	(410)	(355)	(358)	
	その他	223	262	312	185	170	123	911	1,086	920	144	95	77
	文書	44	37	11	65	102	142	28	27	40	31	40	7
	事業	1,461	1,413	876	5	175	162	131	114	80	217	85	41
	電話	2,866	3,487	2,816	2,977	3,091	4,187	2,927	3,110	2,489	2,290	2,366	2,064
	来所	456	518	233	482	429	474	383	383	323	153	135	165
内訳	748	970	801	1,722	2,040	2,281	1,093	1,118	955	1,175	1,020	953	
	(235)	(249)	(220)	(472)	(494)	(505)	(336)	(347)	(330)	(287)	(246)	(225)	

延べ件数、( ) は実件数

< 時間外対応 >

年度	きた			みなみ			にし			ひがし		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1
時間外対応	915	1,006	448	50	206	132	401	252	235	172	60	82
件数	228	276	172	37	164	114	164	130	122	67	28	28

上段：延件数 下段：実件数

- みなみは、新規相談の増加に伴って、家庭訪問や電話相談が著しく増加しています。きたは、事業を通じての相談、にしは、生活支援コーディネーター活動と連動した地域のサロン等での相談（その他に計上）が多い状況です。
- 対象者の状況としては、身近に支援者がいないまたは家族との関係が悪いケース、独居や高齢者世帯で遠方に住む家族からの相談、末期癌患者の退院後のサービス利用についての医療機関からの相談、自力で金銭管理が難しい方の相談、本人や家族に障がいがあるために障がい領域の関係者と連携が必要な世帯の相談など、複雑かつ多問題で、関係機関と密に連携を図りながら支援が必要なケースが増えてきています。
- 相談の内容は、在宅サービスの利用や福祉用具、住宅改修に関すること、介護保険申請・手続きに関すること、日常の療養や健康に関する相談が多い状況です。また、北広島団地地区と東部南地区では、住み替えや住宅型施設に関する相談が増えてきています。
- 市と全高齢者支援センターの総合相談業務には、在宅医療・介護連携に関する相談窓口機能も含まれています。入退院時における医療機関からの相談や退院時カンファレンスへの参加など、医療機関との情報共有の機会が増えてきています。

< 参考 >

\*在宅医療・介護連携に関する相談件数（H31.4月～R2.3月分再掲）

		きた	みなみ	にし	ひがし
相談件数	実	60	57	25	23
	延べ	154	84	37	54

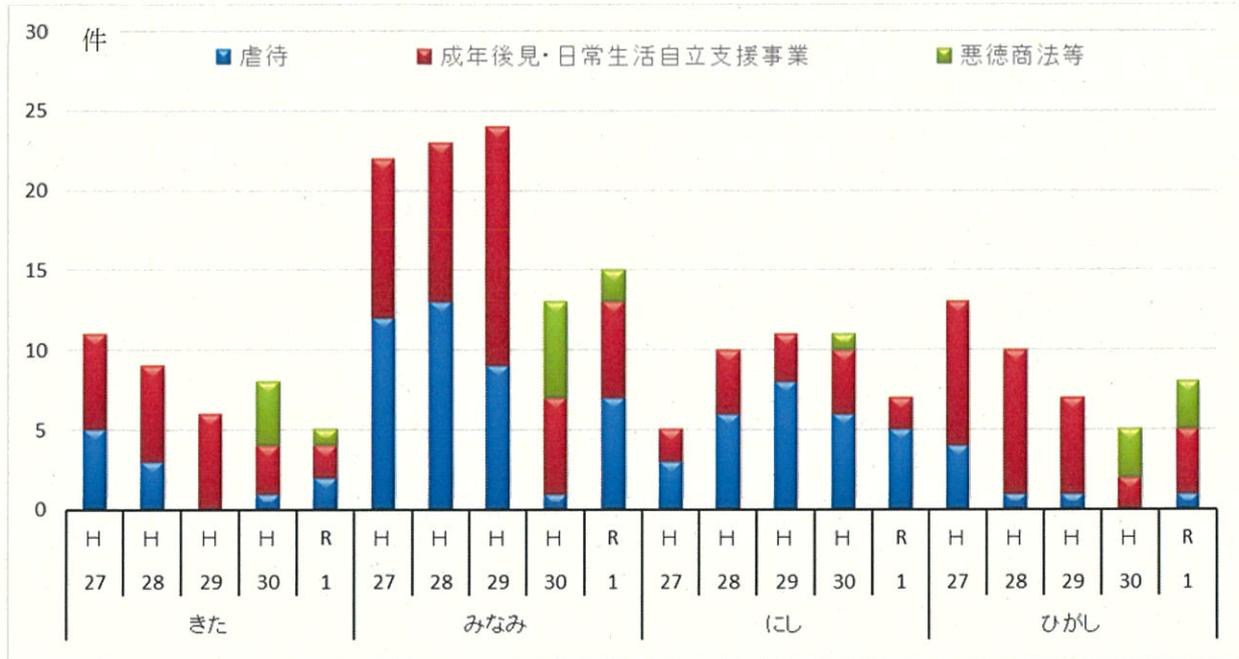
- 認知症初期集中支援チーム（\*）のチーム員候補者として、高齢者支援センターの三職種（15名）が登録しています。今年度は、チーム員会議（3回開催）に計3人のチーム員が参加し、3事例の支援方針を検討しました。対象者のうち1人をチームで支援し、2人は訪問支援対象にはならず、引き続き、総合相談支援で対応しました。

	きた	みなみ	にし	ひがし
チーム員	-	1	2	-
訪問支援対象者／対象外	-	0 / 1	1 / 1	-
チーム員会議／支援回数	-	1 / 0	2 / 1	-

\*平成30年度から開始しています。40歳以上で在宅生活をしている認知症または疑いのある方を対象に、医師や保健師、社会福祉士等の認知症に関する医療と介護の専門職がチームになって、対象者を支援し、適切な医療や介護サービスにつなげるなどの支援を行います。

### ③ 虐待防止・権利擁護

< 相談件数（実数） >

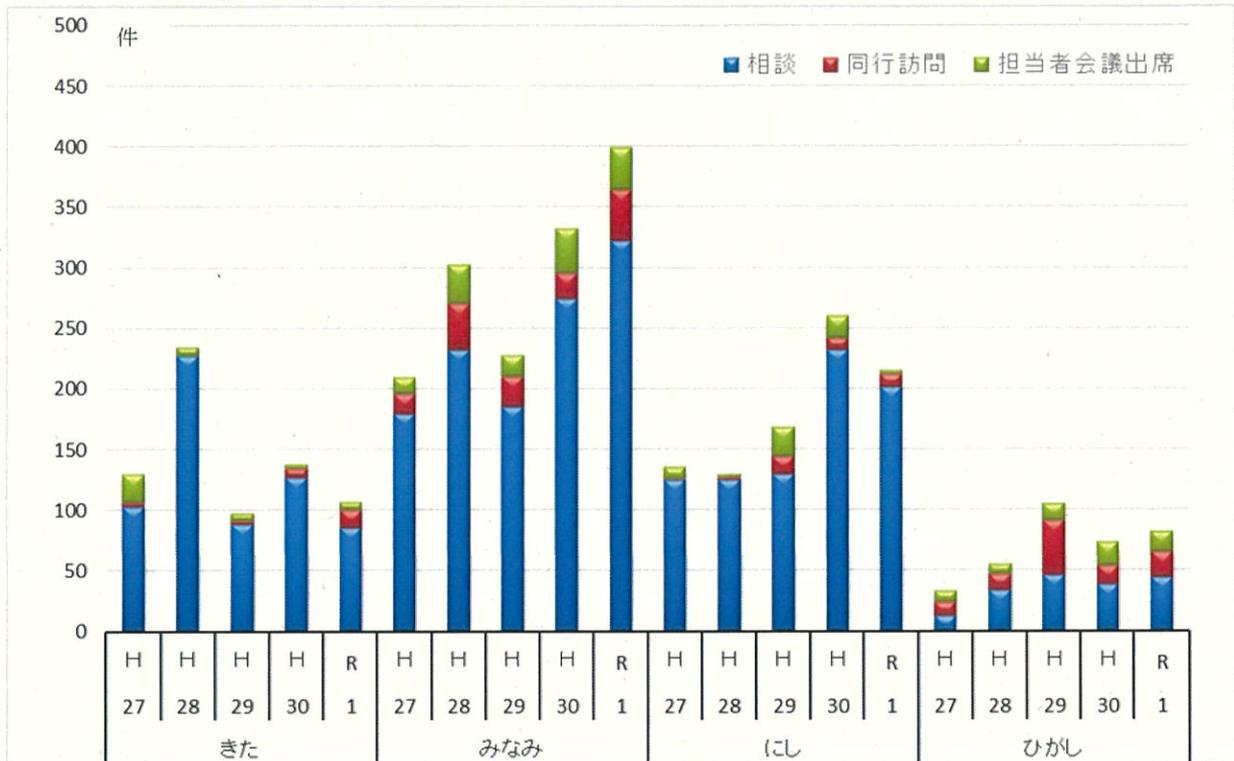


年 度	きた			みなみ			にし			ひがし		
	H29	H30	R 1									
悪徳商法被害	6	4	1	15	6	2	3	1	0	6	3	3
成年後見・日常生活自立支援事業		3	2		6	6		4	2		2	4
虐待（疑いを含む）	0	1	2	9	1	7	8	6	5	1	0	1

- 今年度は、例年に比べ虐待の相談は少なかったですが、虐待の判断までに至らない不適切な介護状態のケースもあり、悪化防止に向けて、ケアマネジャー等とともに連携して支援をしています。
- 虐待の判断までに至るケースが発生した場合は、緊急かつ集中的な支援が必要になってくることから、関係機関と連携し、役割分担をしながらチーム支援を行っていきます。
- 成年後見センターの役割が、市民やケアマネジャーに認知されつつあり、身寄りのない独居高齢者や、認知症や障がいのために金銭管理が困難なケースの支援において、連携を図る機会が増えてきています。
- 悪徳商法被害や特殊詐欺に関しては、次々と新たな手口が報告され、詐欺被害を受けていることを自覚しにくい手口も出てきています。消費者協会や警察、金融機関と連携を図りながら、根気強く注意喚起をしていく必要性があります。

#### ④ 包括的・継続的ケアマネジメント

<ケアマネジャー支援件数（延べ）>



年度	きた			みなみ			にし			ひがし		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1
担当者会議	6	3	6	17	37	39	24	18	3	14	19	17
同行訪問	3	7	15	25	21	42	15	10	11	45	16	21
相談	88	127	85	180	274	322	129	232	201	46	38	44

○支援の方法や件数に変動はありますが、同行訪問による支援が増えています。

○相談内容は、主にケース支援の方法や関係機関との調整に関する相談ですが、医療ニーズの高いケースや支援困難ケースへの同行訪問やケアプラン作成への助言を行うこともあります。

○複合的な問題が複雑に絡み合い、解決や支援に苦慮するような困難ケースについては、市や関係機関とも連携し、ケース会議（\*）を開催するなど、積極的にケアマネジャーを支援するようにしています。

\*困難ケース等について、課題解決や支援の方向性を多職種で検討する会議を、平成30年度からは「地域ケア個別会議」と位置づけ開催しています。

\*地域ケア個別会議の実施状況

	きた	みなみ	にし	ひがし
開催回数	1	2	1	1
検討件数	1	4	1	1

## ⑤ 介護予防事業

○介護予防事業は、認知症予防や閉じこもり予防、転倒予防などを目的に様々な手法で行われています。自主サークル等への側面的支援を通じて、高齢者が参加するだけではなく、自身に役割を担ってもらうこと（例：介護支援ボランティアとしての協力）も、介護予防に効果があるという考え方から、生活支援コーディネーターや協議体とタイアップした多様な取り組みを行っています。

○新型コロナウイルス感染拡大防止のために、外出自粛と密となる集団活動が中止となったことから、フレイル予防の目的で、自宅のできる運動方法のリーフレットを印刷し、銀行や郵便局、スーパーなどに協力を依頼し、配布できるようにしました。

担当		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
きた	実施回数	21	89	118	153	107
	出席者数	403人	1,384人	2,173人	3,126人	2,301人
	令和元年度特徴的な内容	<p>地域の病院や事業所、民間企業、大学等の様々な分野の専門職と協働して事業を行っている。「コグニサイズ」の手法を住民や関係者に伝達し、法人の公益事業（サロン）や認知症カフェで実践するなど、軽度認知障害の早期発見と重度化予防に努めている。</p> <p>市の健康運動教室終了後に立ち上がった自主サークルも軌道にのり、運営を見守っている。センターが主催の事業では、積極的に介護支援ボランティア（65歳以上の元気な高齢者）に役割を担ってもらい運営している。</p>				
みなみ	実施回数	36	21	21	53	58
	出席者数	1157人	610人	470人	1,430人	1,610人
	令和元年度特徴的な内容	<p>老人クラブや地区福祉委員会、「夏祭り」などの自治会の行事に参加し、血圧・握力・身長測定や体操、講話を継続して行っている。講話と体操、脳トレをセットに、講師には、地域のケアマネジャーやリハビリ専門職等を依頼し、参加者からはとても好評だった。</p> <p>2店舗のスーパーと協同で、毎月介護予防教室を行い、楽しみに参加する方が増えてきている。</p>				
にし	実施回数	30	61	27	28	23
	出席者数	434人	1,198人	842人	884人	722人
	令和元年度特徴的な内容	<p>“ふまねっと”を月2回、行っている。延べ参加人数は減ってきているが、参加するだけの立場から介護支援ボランティアへ移行する方が徐々に増え、比率は半々になってきている。進行や内容の決定は、ほぼボランティアの主導で行っていて、いずれは自主的なサークルへ移行していけるよう、サポートに徹していく。</p>				
ひがし	実施回数	56	51	41	39	47
	出席者数	749人	937人	618人	523人	480人
	令和元年度特徴的な内容	<p>大学から講師を招き、筋力トレーニングも取り入れたリラクスマーブメント体操を開催し、男性参加者にも好評だった。</p> <p>閉じこもりや転倒予防を目的とした「元氣ぴんぴん体操」を月1回3会場で実施している。町内会回覧をしている支援センターだよりで事業周知をした結果、新規利用者が増えた。新型コロナウイルスの影響で、会館での集団体操ができなくなったことから、当面の対応として、動画の作成や配信を検討している。</p>				

## ⑥ 家族支援事業

○家族支援事業は、従前から行ってきた、介護者が悩みや思いを吐露する「介護者のつどい」という形式にこだわらず、本人を含む様々な立場の方が気軽に参加できる、認知症カフェやサロン等、多様な方法で展開しています。

担当	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
きた	実施回数	3	5	①食事交流会 6 ②認知症カフェ23	①食事交流会 3 ②認知症カフェ21	①食事交流会 3 ②認知症カフェ17
	出席者数	58人	134人	① 119人 ② 479人	① 69人 ② 386人	① 87人 ② 272人
	令和元年度の特徴的な内容	<p>「食事交流会」は、西の里と東部北地区で開催している。介護者に限定せず、独居や地域とのつながりの少ない方でも参加しやすい事業として実施し、毎回多くの方が参加している。</p> <p>「認知症カフェ」では、参加者からの相談で介護保険サービスにつながる方がいたり、支援が必要な方に、早期に介入できる機会となっている。</p>				
みなみ	実施回数	12	12	①ホット心結の会 10 ②心結カフェ 2 ③映画上映会 1	心結カフェ 12	10
	出席者数	90人	71人	① 71人 ② 17人 ③ 160人	189人	144人
	令和元年度の特徴的な内容	<p>認知症カフェ形式の自由な語りの場として徐々に定着し、楽しみに参加する方が増えたり、介護経験のない地域住民の参加もみられるようになった。</p> <p>ケアマネジャーに参加を促したことで、担当ケースの家族が参加するようになり、ストレスの軽減に繋がった方も出てきた。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、2月以降は活動を自粛しているものの、登録者へは月1回程度電話し、様子を確かめている。</p> <p>登録者18名のうち新規参加者2名、現役介護者6名。月平均12名が参加。</p>				
にし	実施回数	12	12	12	12	11
	出席者数	91人	108人	99人	93人	87人
	令和元年度の特徴的な内容	<p>介護者のつどい「語りあえーる」として、毎月1回自主的に開催され、支援センターは運営をサポートする立場で関わっている。平成29年度からは、マッサージボランティアの参加があり、参加者の顔ぶれによって、語らいの時間や癒しの時間など臨機応変に進行している。</p> <p>新規に5名の参加があり、そのうち2名は継続している。</p>				
ひがし	実施回数	5	5	4	0	0
	出席者数	86人	126人	49人	0人	0人
	令和元年度の特徴的な内容	<p>前年度に引き続き、市主催の家族支援事業（映画上映会等）の協力を行った。</p> <p>支援センターとしては、家族支援に関連する事業は行っていないが、今後、担当圏域内で認知症カフェの立ち上げを視野に、圏域内の地域密着型介護事業所管理者との意見交換を行った。家族支援の取組みを、各事業所の共通課題である地域貢献の一環として開催できないかどうか、定期的な話し合いを予定していたが、3月は中止となった。</p>				

## ⑦ 生活支援コーディネーター及び協議体

### ア 生活支援コーディネーターの活動状況

※生活支援コーディネーターは、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的に、地域づくりのコーディネート（主に資源創出やネットワーク構築の機能）を行う者で、平成 29 年度から各高齢者支援センターに配置しています。

※平成 30 年度からは、介護支援ボランティア登録説明会を随時行い、通年で“担い手”を養成する役割を行っています。

きた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の把握のため、地域の自主団体やサークルに積極的に訪問している。また、東部北地区は、東部南地区と隣接しているため、ひがし高齢者支援センターと協働で活動している。</li> <li>・若い世代を含む多世代に地域に関心をもってもらえるよう、地域たすけあい会議のホームページとフェイスブックを開設し、情報を発信している。</li> <li>・東部北地区に、誰もが気軽に参加できる運動サークルがほしいという意見から、市内大学の地域活性化委員会と大学生が中心となって、12月にいきいき百歳体操を行う運動サークルが立ち上がった。</li> </ul>
みなみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年で、圏域内の自主組織の運営のサポートを継続している。</li> <li>・JR 駅近くの、二つのスーパーの休憩スペースを会場にした介護予防教室を、それぞれに月 1 回開催している。1 回平均 16～21 人の方が継続して参加し、運営が定着してきている。</li> <li>・体操する場がないという住民の声から、7 月から、スーパー店舗の空きスペースを活用したいきいき百歳体操がスタートし、介護支援ボランティアが活躍している。</li> </ul>
にし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援や協議体の運営、また地域の様々な活動に参加しながら、意識的に、地域の情報を集め、社会資源や課題の整理を行い、住民と共有できるようにしている。</li> <li>・社会資源マップを作成し、必要に応じて配布している。</li> <li>・ふまねっと教室の参加者だった方が、ボランティアする側に移行したり、ふまねっとの新しいサークルが 1 カ所立ち上がった。</li> <li>・買い物ニーズを把握したが、乗り合いタクシーの希望者は 2 名で、少なかった。</li> <li>・外出時に体調不良になった高齢者が、家族の連絡先がわからなかったために、救急搬送が遅れてしまった事例があったことから、《安心カード》の作成と配布を積極的に行うようにした。</li> </ul>
ひがし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「支援センターだより（年 4 回発行）」を町内会班回覧や各種団体に配布しながら、地域資源の把握と、支援センターの取り組みの発信を行った。</li> <li>・市外の生活支援コーディネーターとのネットワークができ、視察や情報交換を行った。</li> <li>・圏域の 2 つの介護事業所が行っていたサロンは、1 カ所が終了し、1 カ所は参加者も多く継続している。</li> <li>・スーパーを会場にした介護予防教室は、みなみ高齢者支援センターと協力して活動している。</li> </ul>

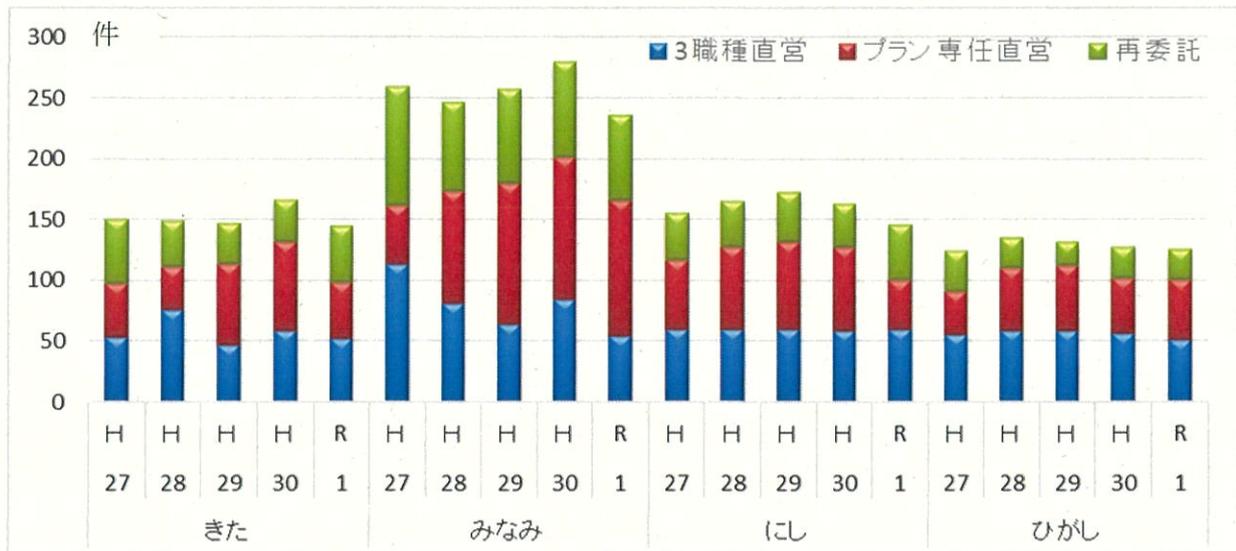
## イ 協議体の開催状況

※協議体は、生活支援コーディネーターが中心となり、地域住民や専門職などが協働で、高齢者を取り巻く地域の課題を話し合い、生活全体を支え合える住民主体の地域づくりを目指し、検討や活動を行っていく取り組みです。  
 これまで「地域たすけあい会議」として開催してきた会議を、平成29年度から「協議体」に位置づけて開催しています。

地区	担当		(協議体)				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1元年度
西の里	きた	実施回数	4	4	5	3	3
		構成員/出席者数	28人/86人	26人/199人	227人	123人	133人
		令和元年度の取り組み	北星学園大学社会福祉臨床学科准教授にオブザーバーとして参加、協力をいただいている。 前年度から継続している4つプロジェクトのうち、「①買い物しあわせプロジェクト」「②地域の情報を知ってしあわせプロジェクト」に取り組んだ。①はアンケートの結果、困り事としての緊急度が低いため終了し、②は、地区福祉委員会と協働で活動団体を紹介する「西の里・虹ヶ丘高齢者活動ガイド」を作成し、5月に全戸配布したところ、会員数が増加した団体が7団体あった。				
東部北		実施回数	—	3	4	5	4
		構成員/出席者数	—	29人/63人	108人	146人	70人
		令和元年度の取り組み	平成29年度から、星槎道都大学社会福祉学科の准教授に、オブザーバーとして参加、協力をいただいている。 複数年かけて意見交換を行ってきたが、具体的な取り組みに至らず、活動のきっかけをつくる目的で、「東部北地区高齢者活動ガイド」を作成することにした。 構成員の意見を取り入れながら、団体へのインタビューや編集を大学生が中心に行った。3月の会議で原案の承認を得て、5月発行を目指していたが、新型コロナの影響で中止となり、発行を延期している。				
東部南	ひがし	実施回数	4	4	3	1	3
		構成員/出席者数	28人/86人	23人/115人	43人	5人	50人
		令和元年度の取り組み	富ヶ岡連合町内会の全面協力を得て、民生委員や町内会長と企画、協議しながら、「食べる」と「動く」の要素を取り入れたイベントを3回開催した。学校給食や配食弁当の試食と、元気ぴんぴん体操やニュースポーツ体験を盛り込み、盛況ではあったが、目標に掲げた、希薄な住民間のつながりを作ることと、男性の地域活動への参加を促すことについては、まだ十分な手ごたえは掴めず、今後も継続して検討していく。				
北広島団地	みなみ	実施回数	6	1	2	5	5
		構成員/出席者数	65人	39人	65人	170人	135人
		令和元年度の取り組み	ふれてボランティアや星槎道都大学の教授や学生、専門職との協働で構成する協議体のメンバーを“ちーむとる”と名付け活動している。例年通り、北広島団地内のベンチ設置やふれてフェスティバルの開催、高齢者や障がい者宅の雪かきと交流会を行った。 メンバーの人員不足と高齢化が課題のため、新たなメンバーの確保に向けた取り組みを進めたい。				
大曲西部	にし	実施回数	5	5	8	8	8
		構成員/出席者数	44人/188人	50人/229人	141人	168人	227人
		令和元年度の取り組み	地域住民や事業所の専門職が誰でも参加し、意見や情報の交換ができる場になっている。 地域で‘集まりの場’を運営している6団体が説明ブースを作り、参加者が自由に活動内容を聞きに回る企画や、認知症を疑う高齢者を見かけたときの声のかけ方について、意見交換する機会を作った。				

## ⑧ 介護予防ケアマネジメント

### ア ケアプラン作成件数（各年度3月時点）



年度	きた			みなみ			にし			ひがし		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1
再委託	34	34	46	77	79	70	41	36	45	19	25	25
プラン専任直営	66	73	46	116	117	112	71	68	40	53	46	49
3職種直営	47	59	52	64	84	54	60	59	60	59	56	51

\* 予防給付と総合事業の合計件数を計上しています。

\* 高齢者支援センターが、総合相談業務に対応できるように、三職種が作成するケアプランの件数は、みなみ高齢者支援センターは1カ月90件、その他の高齢者支援センターは1カ月60件を上限とし、上限を超える場合は、ケアプラン作成専任職員や居宅介護支援事業所に再委託をするように申し合わせています。

ケアプラン作成専任職員は、「みなみ」に2人、「きた」「にし」「ひがし」に1人を配置しています。

○みなみのケアプラン作成件数が増加傾向にあったため、令和元年度からケアプラン作成専任職員を1名増員し対応しました。

○前年度3月時点と比べ、各センターとも、ケアプランの作成件数が漸減したのは、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴って、サービス利用を休止した方がいたことが影響しています。

イ 予防給付ケアプラン作成の実件数と再委託先

令和元年5月～令和2年4月の給付管理数（平成31年4月～令和2年3月のケアプラン）

<予防給付分>

	総件数 (延)	うち再委託 (延)	再委託先の居宅介護支援事業所の数と延べ件数					
			同一法人		別法人			
					市内		市外	
きた	895	394 44.0%	1	46 11.7%	9	338 85.8%	1	10 2.5%
みなみ	1,381	488 35.3%	1	159 32.6%	8	268 54.9%	2	61 12.5%
にし	1,129	406 36.0%	1	112 27.6%	8	180 44.3%	8	114 28.1%
ひがし	723	176 24.3%			7	163 92.6%	3	13 7.4%

<総合事業分>

	総件数 (延)	うち再委託 (延)	再委託先の居宅介護支援事業所の数と延べ件数					
			同一法人		別法人			
					市内		市外	
きた	1,056	274 25.9%	1	59 21.5%	8	212 77.4%	1	3 1.1%
みなみ	1,912	455 23.8%	1	238 52.3%	8	200 44.0%	2	17 3.7%
にし	888	137 15.4%	1	14 10.2%	5	100 73.0%	5	23 16.8%
ひがし	811	143 17.6%			4	136 95.1%	1	7 4.9%

○ケアマネジメントにおいては、自立支援、重症化予防の考え方にに基づき、介護保険サービスからの卒業や、介護保険外サービスである住民主体の地域活動などのインフォーマルな資源の活用を意識して対応していますが、加齢に伴う変化で、身体状況が悪化して、再認定となる方も多い状況です。

# 令和元年度 きた高齢者支援センター

決算

《収入》

費目	積算額(円)	内訳
委託料	20,838,000	
介護予防支援費	8,587,920	7,300円×35件、7,310円×28件、4,300円×954件、4,310円×934件
住宅改修理由書作成料	18,000	2,000円×9件
その他	2,152,620	雑収入、退職給付引当資産取崩
合計	31,596,540	

《支出》

費目	積算額(円)	備考
人件費	27,317,613	三職種(3人)、ケアプラン専任者(1人)・生活支援コーディネーター0.5人工 退職支出引資産支出452,510、福利厚生費60,376
研修費	77,820	北海道介護支援専門員更新研修他
職員市外研修旅費		
会議・研修負担金		
その他活動費		
車両賃借料(保険料含む)	924,820	車両賃借料648,000、任意保険料226,680、自賠責50,140
燃料費	113,090	車両ガソリン等
電話料金(固定加入電話)	120,326	固定電話、ファックス等
電話料金(携帯電話)	283,978	携帯電話、切手、PC回線料等
消耗品費(コピー機使用料含む)	430,072	電気保安協会保守、複合機保守・賃借料、印刷製本費、消耗品等
支援センター協議会会費	35,000	市介護連絡協議会会費、社会福祉協議会会費等
保険料(活動)	13,104	レクリエーション傷害保険
諸経費		
事務所賃貸料	480,000	
光熱水費	464,262	燃料重油、電気料
保険料(施設分)	10,710	施設賠償責任保険
その他		
再委託料(居宅介護事業所への支払い)	3,163,429	7,884円×9件、8,041円×6件、4,644円×336件、4,741円×303件 振込手数料込
雑支出他	84,919	雑支出(業)、雑支出(務)
当期資金収支差額	-1,922,603	
合計	31,596,540	

# 令和元年度 みなみ高齢者支援センター

決算

## 《収入》

費 目	積算額(円)	内 訳
委託料	26,851,000	
介護予防支援費	14,690,100	4,300円×1,798件・7,300円×67件・4,310円×1,401件・7,310円×59件 (内再委託料 4,302,040円 (4,300円×631件・7,300円×21件・4,310円×311件・7,310円×13件))
住宅改修理由書作成料	58,000	2,000円×29件
その他	100,645	預金利息・実習生受入費
合 計	41,699,745	

## 《支出》

費 目		備 考	
人件費	32,933,407	三職種(4人)、ケアプラン専任者(3人)、 生活支援コーディネーター(0.5人)、 健康診断料、共済会掛金、共済会出資金	
研修費	職員市外研修旅費	49,620	
	会議・研修負担金	18,889	
その他活動費	車両賃借料(保険料含む)	796,842	駐車料金 13,960円
	燃料費	81,121	ガソリン代
	電話料金(固定加入電話)	440,457	
	電話料金(携帯電話)・通信費	150,593	切手、はがき代 37,412円
	消耗品費(コピー機使用料含む)	1,017,113	備品等購入
	支援センター協議会会費他	35,000	
諸経費	事務所賃貸料	784,800	
	光熱水費	240,000	
	保険料	37,309	介護保険社会福祉事業者総合保険、業務災害保険
	その他	360,968	建物設備保守点検料 233,260円、建物防犯管理料 127,708円
その他	再委託料(居宅介護事業所への支払い)	4,696,932	再委託料 4,302,040円 (4,300円×631件・7,300円×21件・4,310円×311件・7,310円×13件) 消費税 372,872円、振込手数料 22,020円
	その他	47,540	慶弔費他
	次期繰越額	9,154	
合 計	41,699,745		

# 令和元年度 にし高齢者支援センター

決算

## 《収入》

費目	積算額(円)	内訳
委託料	20,209,124	
介護予防支援費	8,861,810	7,300円×31件/年+4,300円×984件/年+7,310円×30件/年+4,310円×971件/年
住宅改修理由書作成料	0	
その他	76,552	受取利息、実習費、認知症初期集中支援チーム員謝礼金
合計	29,147,486	

## 《支出》

費目		備考	
人件費	20,735,035	保健師(1人)、主任介護支援専門員(1人)、社会福祉士(1人)、介護支援専門員(1.5人)	
研修費	職員市外研修旅費	20,430	
	会議・研修負担金		
その他活動費	車両賃借料(保険料含む)	1,274,080	車両保険、車両リース料
	燃料費	901,625	ガソリン代・灯油代
	電話料金(固定加入電話)	405,573	
	電話料金(携帯電話)・通信費	45,415	
	消耗品費(コピー機使用料含む)	499,885	新聞代、会議費、協議体経費含む
	支援センター協議会会費他	47,000	
	器機賃借料	231,984	コピー機リース料
諸経費	事務所賃貸料	1,068,000	家賃、駐車場料
	光熱水費	252,433	
	保険料(施設分)	129,530	
	除雪費	60,000	
その他	再委託料(居宅介護事業所への支払い)	2,670,625	
	その他	514,430	
	繰り越し	291,441	
合計	29,147,486		

# 令和元年度 ひがし高齢者支援センター

決算

## 《収入》

費 目	積算額(円)	内 訳
委託料	18,547,456	
介護予防支援費	6,751,970	4月～9月 新規14件×7,300円 継続753件×4,300円 10月～3月 新規21件×7,310円 継続756件×4,310円
住宅改修理由書作成料	16,000	4件×4,000円
その他		
合 計	25,315,426	

## 《支出》

費 目		備 考	
人件費	20,441,688	三職種3人、ケアプラン専任者1人、生活支援コーディネータ0.5人	
研修費	職員市外研修旅費	11,860	
	会議・研修負担金	16,400	
	ケママネ研修費	36,400	介護支援専門員専門研修他参加
その他活動費	車両賃借料(保険料含む)	241,108	車両保険料を計上
	燃料費	207,463	車両ガソリン代
	電話料金(固定加入電話)	333,777	
	電話料金(携帯電話)・通信費	236,502	携帯電話199,214円 切手代他 37,288円
	消耗品費(コピー機使用料含む)	558,853	事務用消耗品、備品消耗品、コピー使用料を計上
	支援センター協議会会費他	42,490	社会福祉協議会会費他計上
	ボランティア保険	18,480	ボランティア行事保険
諸経費	事務所賃貸料	0	
	光熱水費	278,393	灯油代
	職員交通費	362,196	
	印刷外注費	89,154	名刺、封筒印刷代
	その他経費	125,246	交際費、福利厚生費、租税公課、産業廃棄物代、雑費を計上
その他	再委託料(居宅介護事業所への支払い)	1,538,430	年間312件
	紹介手数料	75,567	看護師紹介手数料
	繰越	701,419	
合 計	25,315,426		